(大正十四年十二月一日)
(第三種郵便物認可)

THE TAIRA SHIMPO

昭和三年二月二十五日

第五十六號

〔一〕

平新報

(日一月二十年四十正大)

發行日每月三回
五ノ日發行

編輯兼發行印刷人
山野邊庄吉

發行所
福島縣平町二丁目二番地
新報社

廣告料五號十二字詰
一行一回五十錢
場所指定倍增

一部定價金十錢送料五厘

嵐は去る、戰の跡

策戰の勝政友派
共倒れの民政派

普選、普選と要望した衆議の第一次總選擧も結末を告げたが顧みて相變らず既成政黨の潛在力は根强き事を如實に物語つて居る、勿論立候大半が既成政黨員であるから已むを得ぬ事である、議會政治の構成としてどうしても二大政黨は當然の事であり而してそれが少數の中立議員の傾背によつて天下を取る事になる、それはそれとして此處に濱三郡第三區の戰跡を顧みるに別項數字に表はせる如き戰跡で統計が有力に物語つて居るが、既報の如く戰端開始の節既に政友會は機先を制して

公認問題も決定して堂々たるものであつた、飜つて民政黨は比佐氏の病氣のため遲れ又佐川氏を公認とせんとするもの等あり加ひて北都双相には民政黨を脫黨して山田氏の立つあり同氏の得票の二千有余にみてもこれを氏家氏の得票にすれば有に氏家氏が松本氏に勝つて居る事になる理で共倒れした事になつて居る又政友派は木村氏從來の關係より双葉郡内大久、久之濱方面より千余票を得又松本氏には井上氏一派參じて石城の勿來川前等其他よりこれ又千余票得て南北相

呼應して二人の當選を見せる所に大勝の最大因がある樣である、引いて第一區に觀るにこれ又民政黨は公認問題で揉みにもみ、川渕長澤兩氏の共倒れを演じて了ひ結局政友六、民政五で政友側勝ち公認ならざる

中立は一人の當選を見す、如實に公認即ち既成政黨の力大なるを思はしめる此處に數字的に第三區の狀況を調ふれば、

▼選擧當日現在の有權者數　六九、九三五
▼確定名簿登錄數　七〇、七〇九
▼投票數　六一、〇七八
▼棄權　八、七九七
▼無效　六八九
▼有效　五六、二〇〇

にして七百七十四人が失格

左に双葉、相馬は合計として本郡各町村別に各得票を明揭すれば左の如くである

數字は如實に物語る三旬の戰績

町村名	木村	比佐	松本	氏家	佐川	山田
平	一、五五九	一、六六九	一五七	一七八	九〇	二五
飯野	三三九	二〇三	一九	五	六	二
鹿島	一四一	一六〇	五	四	七	〇
江名	五二九	二九八	四	三七	五	〇
豐間	二八一	一五九	一三	三三	四三	〇
高久	二一七	一七四	〇	〇	三九	〇
夏井	二一二	二二六	三	〇	四	一
神谷	二九七	一九九	七五	二六	一〇	〇
草野	五二四	一七六	七〇	四	四	〇
大浦	六七六	一一八	九	五	三	〇
四倉	八九三	三〇三	四	一四	一〇	四
大野	四三五	二三五	三	二	九	〇
平窪	三〇五	二〇五	二三	八	二五	〇
赤井	四二三	七二八	二二	一〇	一二	〇
小川組合	四四二	二七〇	五	九	六	〇
川前	一四〇	二九〇	二二	一九	一五	一
三坂組合	二〇八	三六〇	一三	一三	四	一
永戸組合	一九九	三八九	〇	六	一五	一
好間	五一六	九〇五	八一	五三	三一二	一
内郷	七四八	二、二八七	一九四	七九	三九一	一〇
湯本	三七六	一、四一七	三八	一四	三九	一
磐崎	二九八	九〇八	一二三	四三	六七	一
上遠野	三七八	三八四	一二	四	一三	一
入遠野	二二七	四五九	一二	二	三九	一
田人組合	二四八	四二九	二二	一〇	一二	〇
川部	三三一	三〇七	四四	四	一〇	〇
勿來	四五四	五八三	二四六	八	二三	〇
錦	三四九	二四二	五	〇	二	〇
山田	三七九	一六三	一〇	〇	一七	一
植田	四九一	四五七	一五	四	五	〇
波邊	一八五	一五四	一四	三	二	〇
泉	三三三	三一四	四	二〇	一〇	〇
玉川	二二九	二三二	二三	〇	一一	二
小名濱	七六六	三八五	一三	二八	一八	二
石城郡計	一四、二二九	一五、八〇六	一、一三九	六二七	一、二七九	一、一六
双葉郡計	一、一七四	九〇	四、九九八	四、四四二	五二	八四五
相馬郡計	一三二	七一	六、四五三	六、四四六	五四	一、三四二
總合計	一五、四三五	一五、九六七	一三、二三四	一二、〇七一	一、三八五	二、二九三

當選御禮

木村清治

比佐昌平

事實と人物

（九）　栃木生

平産婆看護婦學校生徒募集

四月八日迄願書受附

何事業でも一つの事業を創立完成するには並大体の努力ではない、其處に經營者の熱心、努力と手腕の頁に綴られ成功となつて顯はれて居る。

平町に存在する平産婆看護婦學校は清野キヨ子女史の經營になるものであるが同校が今日の隆盛と地方斯界に貢献するに至りたるにはやはり同女史の努力と手腕の結晶が覗はれる。

聞くに、同校は明治四十五年三月私立平産婆看護婦講習所と稱して認可を受け、草野村出身渡邊寅次郎氏『陸軍二等軍醫』所長となり次いで大正三年五月氏に代はるに泉村出身清野キヨ子女史襲ぎて十二年三月從來の所名を廢して私立平産婆看護婦學校と改稱認可をうけ、校舍の狹隘を告げ、十動に出でぬが近來同業者間五年九月第二校舍を增築し職員には在平著名醫師在り行するを遺憾とする、禮を昨年三月『第一回には十七申して然るべきに本社の營人であつたが』二十回の卒業を防害するとはいづれが業生は五十余人となり此の狹量なるや、先づ自省が然十六年間の卒業總數七百余るべしであらねばならぬ。人を出しそれ〳〵實社會に活動し斯界のために貢献し事の大小を問はず吾人は許居るも、又一方同女史は大すべき事と許さざるものが正元年十一月平看護婦會を組織し會長となりそれが天職に盡瘁し居らる、因みに同女史は目下愛國婦人會石城郡幹事、日本赤十字篤志看護婦、愛國婦人會員二等有功章の拜持者であつて本郡知事より三回、平町長より二回表彰狀を受けて居る

◆同校は本年も生徒若干名募集する事となり、願書提出期日は四月八日迄で學歷程度は高等小學校卒業程度本年は入學試驗なく希望者は同校に問ひ合せらるべしと。

話耳目

過日大同閉同人の僞名の下に筆者を侮辱、脅迫文を本社に投じた卑怯者があつた調査の結果判明したれば投書狂卑劣漢

僞田酒好『假姓名』

として彈擊する筈であつたが知友諸君が糞をつかむ如きものなれば止めたらよかろうとの忠告あれば右は見合する事とした、然し彼が尚は反省せず口に筆に卑劣極まる行爲をなすに於ては斷々乎として彼の罪惡を公開して世の批判に問ふものである。『山野邊眞立』

× ×

四ツ倉新報の小林庫二君は他の所有物を盜用使用して自ら省みず謝罪もせず筆者の不當をならして居る由であるが君にしかく正當の理由あるならいや自ら行爲が判らぬとせば相當手續して法の判きをうける事にするか、所有權侵害にあらずしてか何ぞ、山田綠雨君が磐民の看板をタヽき割つたは何でもこんなのが原因であつて、筆、筆やはそんな直接行動に出でぬが近來同業者間にかくの如き脊德行爲の横行するを遺憾とする、禮を申して然るべきに本社の營業は五十余人となり此の狹量なるや、先づ自省が然十六年間の卒業總數七百余るべしであらねばならぬ。人を出しそれ〳〵實社會に活動し斯界のために貢献し事の大小を問はず吾人は許居るも、又一方同女史は大すべき事と許さざるものが正元年十一月平看護婦會を組織し會長となりそれが天職に盡瘁し居らる、因みに同女史は目下愛國婦人會石城郡幹事、日本赤十字篤志看護婦、愛國婦人會員二等有功章の拜持者であつて本郡知事より三回、平町長より二回表彰狀を受けて居る

◆同校は本年も生徒若干名募集する事となり、願書提出期日は四月八日迄で學歷程度は高等小學校卒業程度本年は入學試驗なく希望者は同校に問ひ合せらるべしと。

祝●平●新●報●發●展

磐城佑賢學舍

大平壽男

松本幸平

祝●草●野●小●學●校●增●築

草野村小學校

職員一同

草野村役場

村長　高岡唯一郎

助役　鈴木長器

收入役　大場鈴次郎

書記　三谷順教

渡邊新助

大平芳孝

手北鄕邦滿

小林繁雄

本町　栃田病院　電話五〇八番

平町四丁目　佐藤病院　電話五〇八番

平町田町　高久病院　電話五一三番

平町細屋町　電話五〇七番　内科小兒科皮膚科

平町田町　電話一二九番

温泉旅館　松柏館　電話五番

朝日煙突

御存知ですか

サビナイ
ヤケナイ
クサラナイ

石綿セメント製

耐水!!!耐火!!!美麗!!!廉價!!!

平町五丁目

㊦釜屋商店

電話九一三九番

理化學研究所製

吸入用酸素・酸素吸入器

優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ

平町四丁目

關内藥舖

藥劑師　關内榮助

電話四〇番

良品廉賣の代表的店に買いよい店

㊦中野呉服店

平町三丁目（電話六十七番）

何時も祝儀祝ひもの其他珍柄は豊富に揃ひてあります

磐城セメント代理店

西村屋藥舖

平町二丁目　電話二三番

何卒御用命を

春寒に當り

オーバー　六・七圓ヨリ
トンビ　十一・二圓ヨリ
大人マント　七圓五十錢ヨリ

其外
婦人コート・婦人マント
モヂリ外套
學生外套
全部荷揃

呉服洋品やかふ店

（三〇二電）貳平城錦